

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第17号 平成20年 9月13日

勝敗のカギはエラーの数だった

残念！初タイトルならず・・・



9月13日今期3回目の東京ドームに出向き、KUSA1、CLASS-Cの決勝戦をオズと行った。結果は、牧野が好投したものの、肝心なところで打線が沈黙、結果は、5：3にて敗戦し、初タイトルを逃してしまった。

今日の我がチームは先行、初球死球で山下が出塁、続く山田も四球を選びノーアウト1、2塁、続く深沢はライトフライで倒れるも、続く牧野の打球は野手のFCで1アウト満塁、絶好の大量得点を予感させた。牧野が投げるゲームはいつも貧打故に、最高のプレゼントかと思ったが、ジロー、泉の連続三振により、中富のサードゴロエラーの間の1点に留まった。2回もランナーがサードまで進むが残塁、3回も1アウト2、3塁と、得点の場面に走塁のまずさでDP、得点機を失った。そして、今日のゲームを決めたのは、2回の相手チーム攻撃にあった。振り返ってみると、ヒットの数は同じ、四死球の数は、我がチームが上、そんな中で、勝負を決めたのは、エラーの数であった。相手チームの数が3個に対して、我がチームは5個、たかが2個であるが、非常に重要な場面でのエラーであったため、ゲームを決定づけてしまった。この場面で・このアウトカウントで、自身のところにボールが飛んで来たらどうするか？このアウトカウントでは何処に送球するのか？というイメージを自身で持つ事は非常に大事な事であり、且つ周囲と声を出して意識を確認する事も非常に重要なことであろう。この部分の欠落が今日の敗戦に繋がってしまった。そんな敗戦の中でも、チームの活気は戻ってきた。声を出して、投手を盛り上げ、声を出してアウトカウントを確認し、そしてそして、声を出して勝利に前進する、これがチーム一丸であろう！前節の試合が試合だっただけに、1節で雰囲気を取り戻したメンバーに感謝したい！

成田、良く声出ていたよ！（カメラに近かったから？）それにしても、今期1番声出したつもりだけど、俺の声は通らんなー（笑） 那須さんのファールは惜しかったなー（ランニング・・・？）